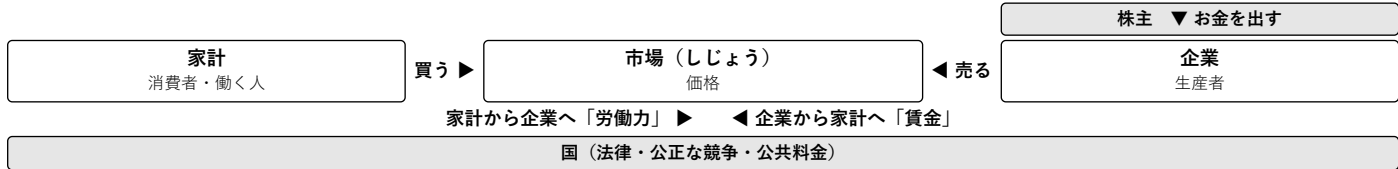


1 全体像	2・3 生産	4・5 企業	6・7 株式会社	8・9 働く人	10・11 働き方	12・13 価格	14・15 価格の働き	16 まとめ
-------	--------	--------	----------	---------	-----------	----------	-------------	--------

このページのゴール この単元の全体を、ざっと言える

The diagram illustrates the flow of goods, money, and labor between three main entities: 家計 (Household), 市場 (しじょう) (Market), and 企業 (企業) (Company).
1. **家計 (Household):** Labeled as 消費者・働く人 (Consumer・Worker).
2. **市場 (しじょう) (Market):** Labeled as 価格 (Price).
3. **企業 (Company):** Labeled as 生産者 (Producer).
Flows:
- **買う (Buy):** An arrow points from the Household to the Market.
- **売る (Sell):** An arrow points from the Market to the Company.
- **家計から企業へ「労働力」 (Labor power from household to company):** An arrow points from the Household to the Company.
- **企業から家計へ「賃金」 (Wage from company to household):** An arrow points from the Company to the Household.
Bottom Bar: A grey bar at the bottom contains the text 国 (法律・公正な競争・公共料金) (Country (Law・Fair competition・Public utility)).

```
graph LR; HH[家計  
消費者・働く人]; M[市場 (しじょう)  
価格]; C[企業  
生産者]; HH -- 買う --> M; M -- 売る --> C; HH -- "家計から企業へ「労働力」" --> C; C -- "企業から家計へ「賃金」" --> HH; B[国 (法律・公正な競争・公共料金)];
```



企業は何を生産し、何のために生産する？ 仕事を分けると、何がよい？

企業には、どんな種類がある？ 利潤のほかに、どんな責任がある？

大きな資本を、どうやって集める？ 株主には、どんな権利と責任がある？

働く人は、どんな権利や法律で守られている？

働き方は、どう変わってきた？ いきいきと働けるようにするには？

ものの値段は、どう決まる？ どんなときに変わる？

価格には、どんな働きがある？ 競争が弱まると、どうなる？

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com) <https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad3%e7%ad4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e5%85%ac%e6%b0%91%e3%80%91%e6%b6%88%e8%b2%bb%e7%94%9f%e6%b4%bb%e3%81%a8%e5%>

1 全体像	2・3 生産	4・5 企業	6・7 株式会社	8・9 働く人	10・11 働き方	12・13 価格	14・15 価格の働き	16 まとめ
-------	--------	--------	----------	---------	-----------	----------	-------------	--------

2 企業は、何を生産している？なぜ仕事を分けるの？

このページのゴール 生産と、生産に必要なもの（設備・原材料・労働力・資本）、分業と交換のよい点（効率）を言える

① 生産に必要なもの

⑨前半で学んだ、生産の主体の企業を、パン屋のA店で見てみましょう。

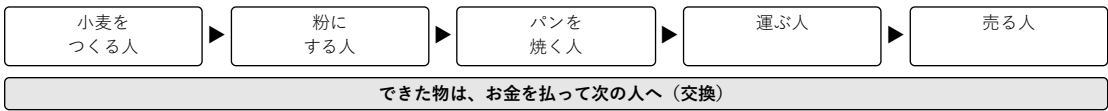
生産：財やサービスをつくり出すこと。生産の中心となるのは企業。

必要なもの	意味	A店（パン屋）の例
<u>設備</u>	生産に使う、工場や機械などの物	オープン・店の建物
<u>原材料</u>	つくる物のもとになる材料	小麦粉・バター・卵
<u>労働力</u>	働く人	パンを焼く人・売る人
<u>資本</u> （しほん）	上の3つを用意するための元手のお金	A店を開く元手のお金

企業がつくるのは、パンのような形のある財に限りません。美容院の散髪、鉄道で人を運ぶこと、病院の診察のようなサービスも、企業が生産します（⑨前半の財とサービス）。

② 仕事を分けると、なぜよいのか

分業：仕事を分けて受け持つこと。交換：つくった物を、お金を仲立ちに取りかえること。



自動車を組み立てる流れ作業
（ポーランドの自動車工場）
写真：Marek Ślusarczyk (Tupungato)
Photo portfolio (CC BY 3.0)。
Wikimedia Commons より、
白黒にした

	1人で全部つくる場合	分業する場合
仕事のしかた	最初から最後まで、1人で行う	得意な仕事に集中でき、なれて早くなる
時間と量	時間がかかり、つくれる量が少ない	たくさん・早く・安くつくれる（ <u>効率</u> がよい）
つからない物	自分で用意する	お金で手に入れる（交換）

注意 ×企業が生産するのは、形のある財だけ ○ サービスも生産する

合言葉 「分けてつくって、お金で交換」

→ まとめ：企業は、設備・原材料・労働力・資本で生産し、分業と交換で効率よくつくる

3 企業は、何のために生産する？

このページのゴール 利潤の求め方、資本主義経済、競争と技術革新を言える

① 売り上げから費用を引いた残りが、利潤

A店は、パンを売ってお金を得ます。このお金（売り上げ）から、パンをつくるためにかかったお金（費用）を引いた残りを、利潤（りじゅん）といいます。

売り上げ - 費用 = 利潤
民間の企業（私企業。4ページ）は、利潤を目的に生産します。

A店の1か月（例）		金額	① 費用を足す 80 + 70 + 30 = 180 （万円） ② 売り上げから引く 200 - 180 = 20（万円） 費用が売り上げより多いと、利潤は出ず、損 をします。
売り上げ	パンを売って得たお金	200万円	
費用	原材料費	80万円	
	賃金	70万円	
	その他の費用（光熱費・家賃など）	30万円	
利潤	売り上げ - 費用	20万円	

② 競争と技術革新

資本主義経済：資本を元手に、企業が利潤を目的として自由に生産を行う経済のしくみ（日本など多くの国）。

企業は自由に生産できるので、ほかの企業との競争が生まれます。競争は、次のように社会を動かします。

- ① 企業は、ほかの企業より売れる物をつくろうと競争する
- ② 新しい技術・製品・つくり方を生み出す（技術革新〔イノベーション〕）
- ③ 消費者は、より良い物をより安く手に入れられる（例：電気を少ししか使わない家電）

注意 × 利潤とは、売り上げのこと ○ 売り上げから費用を引いた残り

合言葉 「利潤 = 売り上げ - 費用」

→ まとめ：企業は、利潤を目的に競争し、その中で技術革新が生まれる

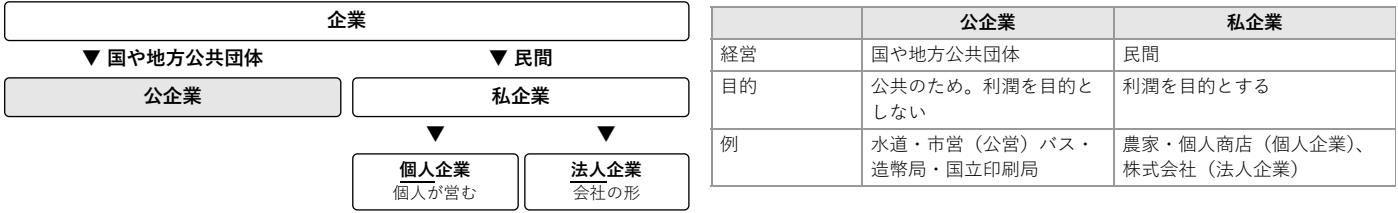
4 企業には、どんな種類がある？

このページのゴール 公企業と私企業、個人企業と法人企業、中小企業と大企業のちがいを言える

① 公企業と私企業、個人企業と法人企業

街の水道も、農家も、大きな会社も、みな企業です。だれが経営するか、何を目的にするかで分けると、次のようになります。

公企業：国や地方公共団体が経営し、公共のために仕事をする企業。
私企業：民間が経営し、利潤を目的とする企業。



場面から種類を決めるときは、**だれが経営しているか** → **何を目的にしているか**の順に見ます。

例	経営	目的	種類
Aさんが1人で営むパン屋のA店	民間	利潤	私企業（個人企業）
株式会社のB社	民間	利潤	私企業（法人企業）
市が営むバス	地方公共団体	公共のため	公企業

② 中小企業と大企業

中小企業は、**企業数の99%以上、働く人の約7割**をします（中小企業庁の調べ）。大企業から部品の生産を任される中小企業や、独自の技術で世界に製品を売る中小企業もあります。決め方の例（製造業）：**資本金3億円以下**または**働く人300人以下**の企業です（中小企業基本法。業種でちがいます）。

注意 × 水道やバスの公企業も、利潤を第一の目的にしている ○ 公企業は**公共のために**仕事をする

合言葉 「私企業は利潤、公企業は公共のため」

→ まとめ：企業には公企業と私企業があり、中小企業が多くの人を雇っている

1 全体像	2・3 生産	4・5 企業	6・7 株式会社	8・9 働く人	10・11 働き方	12・13 価格	14・15 価格の働き	16 まとめ
-------	--------	--------	----------	---------	-----------	----------	-------------	--------

5 企業には、利潤のほかに、どんな責任がある？

このページのゴール 起業とベンチャー企業、企業の社会的責任（CSR）の例を言える

① 起業するとき、何を考える？

起業：新しく事業を始め、企業をつくること。

ベンチャー企業：新しい技術や独自のアイデアをもとに事業を起こし、成長をめざす企業。

企業をつくるときは、次の順に考えます。例は、Aさんが、ひとり暮らしのお年寄りに食事を届ける会社を起こす場合です。

- ① だれの、どんな困りごとを解決するか
(Aさんの例：ひとり暮らしのお年寄りが、食事をつくるのが大変なこと)
- ② どうやって売り上げを得て、利潤を出すか
(Aさんの例：食事の代金を売り上げにして、費用を引いた残りを利潤にする)
- ③ 社会の一員として何を守るか
(Aさんの例：法律や、食べ物の安全を守る。これが、次の企業の社会的責任)

Aさんの会社は、利潤を出しながら、地域の困りごとを解決していることになります。

② 企業の社会的責任（CSR）

企業の社会的責任（CSR）：企業は利潤を求めるだけでなく、社会の一員として責任を果たすべきだという考え方。

責任の分野	取り組みの例
法律を守る	法律を守って生産する
安全な商品をつくる	安全な商品をつくって売る（⑨前半で学んだ、企業が欠陥の責任を負う製造物責任法ともつながる）
環境を守る	ごみや二酸化炭素を減らす
働く人の生活を守る	働きやすい職場をつくる
地域や文化を支える	地域の行事やボランティアを支える。文化やスポーツを支える

注意 × 企業は、利潤を上げれば、ほかのことは考えなくてよい ○ 社会の一員として責任を果たす

合言葉 「利潤も、社会への責任も」

→ まとめ：企業は、起業して利潤を出すだけでなく、社会的責任も果たす

6 株式会社は、どうやって大きな資本を集める？

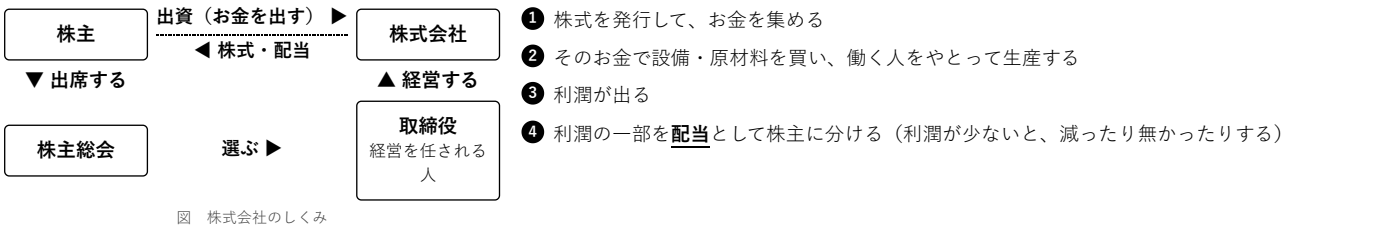
このページのゴール 株式・株主・株主総会・取締役・配当・有限責任を、しくみの図で言える

新しい工場をつくるには、何十億円ものお金（資本）が要することがあります。1人の社長だけでは、なかなか出せません。そこで、多くの人から少しずつお金を集めるしくみがあります。

株式会社：株式（かぶしき）を発行して、多くの人から資本を集める会社。いちばん多い会社の形。
株主（かぶぬし）：株式を買って、会社にお金を出した（出資した）人や会社。

たとえば（架空の数です）、1株を1万円として株式を30万株発行し、すべて買ってもらえれば、1万円×30万株＝30億円の資本が集まります。1人の社長が出せない大きなお金も、多くの人から少しずつ出し合えば集められます。

① しくみの図と、お金の流れ



株主総会：株主が集まって、会社の基本的な方針を決めたり、取締役（会社の経営を任される人）を選んだりする会議。株主は、持っている株式の数に応じて議決権（票）を持つ。
配当（はいとう）：会社が得た利潤の一部を、持っている株式の数に応じて株主に分けるもの。

会社がもし倒産しても、株主が失うのは、出したお金までです（有限責任〔ゆうげんせきにん〕）。くわしくは7ページ）。

注意 × 株主総会では、株主1人が1票を持つ ○ 持っている株式の数に応じて票を持つ

合言葉 「株式でお金を集め、利潤を配当で返す」

→ まとめ：株式会社は、株式で多くの人から資本を集め、利潤を配当で返す

1 全体像	2・3 生産	4・5 企業	6・7 株式会社	8・9 働く人	10・11 働き方	12・13 価格	14・15 価格の働き	16 まとめ
-------	--------	--------	----------	---------	-----------	----------	-------------	--------

7 株主には、どんな権利と責任がある？ 株価は、どう決まる？

このページのゴール 株主の権利（議決・配当）と責任（有限責任）、証券取引所・株価・投資を言える

① 株主の権利と責任

	内容	A社の株主	株式の数	議決権と配当
権利	株主総会で議決に加わる。配当を受け取る	Aさん	100株	もとなる量
責任	<u>有限責任</u>	Bさん	300株	Aさんの3倍

1人1票ではなく、株式の数に応じて決まります。

有限責任：会社が倒産しても、株主は、出したお金を失うだけで、それ以上の会社の借金を返す責任は負わない。だから、多くの人が株式を買いやすい。

② 証券取引所と株価

株式は、証券取引所などで売り買いされます。株式の値段を株価といいます。株式を買って会社にお金を出すことを投資といいます。

株式を売りたい人と売りたい人	株価
買いたい人が、売りたい人より多い	上がる
売りたい人が、買いたい人より多い	下がる



株価を表示する証券取引所の中
（東京都 東京証券取引所）
写真：Kakidai（CC BY-SA 4.0）。
Wikimedia Commons より、
白黒にした

例：A社の利潤が減りそうだと、配当も減りそうなので、株式を売りたい人が増え、株価は下がります。株価が下がると、株式を買った人は損をすることがあります。投資には、損をする心配もあるので（ただし有限責任なので、失うのは出したお金までです）。値段が決まるくわしいしくみは、12ページで学びます。

注意 × 会社が倒産すると、株主は会社の借金を全部返さなければならない ○ **有限責任**なので、出したお金を失うだけ

合言葉 「買いたい人が多いと上がり、売りたい人が多いと下がる」

→ まとめ：株主は有限責任。株価は、買いたい人と売りたい人で動く

8 働くことには、どんな意味がある？働く人は、どう守られる？

このページのゴール 労働の意義、勤労の権利と義務、労働者と使用者、労働組合と労働三権を言える

① 労働の意義

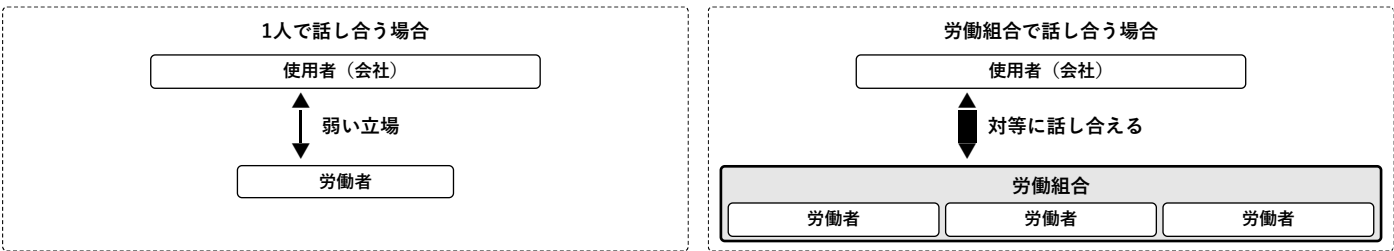
意義	中身
生活を支える	収入（賃金）を得る
社会に参加する	仕事を通じて、社会の役に立つ
成長する	自分の能力を生かし、成長する

憲法は、**勤労の権利**（第27条）を保障し、同時に勤労の義務も定めています（⑤後半で学びました）。

② 1人では弱い立場 — 労働組合

働く人（**労働者**）は、会社（**使用者**〔しやうしゃ〕）とくらべると、弱い立場になりやすくなります。1人では、賃金や働く時間について、対等に話し合いにくいからです。

労働組合：労働者が団結（だんけつ）してつくる組織。使用者と対等に話し合う。



労働三権（労働基本権）	内容
団結権	労働組合をつくる権利
団体交渉権	労働組合が使用者と交渉する権利
団体行動権	ストライキなどを行う権利

注意 ×労働三権は、労働三法の名前 ○労働三権は**権利**、労働三法は**法律**で、別のもの（法律は9ページ）

合言葉 「1人では弱い、団結して対等に」

→ まとめ：働く人は、労働組合をつくり、労働三権を使って、使用者と対等に話し合う

9 働く人を守る法律には、何がある？

このページのゴール 労働三法の中身、労働基準法の決まり、多様な働き方が求められるわけ（個人の尊重）を言える

① 労働三法

労働三法	内容
<u>労働基準法</u>	労働条件（賃金・労働時間・休日など）の最低の基準を決める
<u>労働組合法</u>	労働者が労働組合をつくり、使用者と交渉することを保障する
<u>労働関係調整法</u>	労働者と使用者の争い（労働争議）を防いだり、解決したりする（労働委員会が間に入る）

労働基準法：労働条件の最低の基準を決める法律。

項目	決まり	
労働時間	1日8時間・1週40時間以内	「最低の基準」とは、これより悪い条件で働かせる約束をしても、その部分は無効になり、法律の基準が当てはまるということです（例：休日が1日も無い約束）。
休日	少なくとも毎週1日	
賃金	男女で差をつけない	
子ども	中学生までの子どもを働かせるのは原則禁止	

あわせて覚える法律：男女雇用機会均等法（⑤後半で学びました）・育児・介護休業法（子育てや家族の介護のために、休みを取れる）

場面から、どの法律が関係するかを選ぶ練習をしましょう。

場面	関係する法律
賃金や休日など、働く条件の最低の基準を守らせたい	<u>労働基準法</u>
働く人が集まって、会社と話し合う組織をつくりたい	<u>労働組合法</u>
会社と働く人の争いを、間に入って解決してほしい	<u>労働関係調整法</u>

② 多様な働き方が求められるわけ

子育て・家族の介護・病気・障がい・学び直しなど、人によって事情はちがいます。一人ひとりを大切にする（**個人の尊重**。⑤で学びました）ためには、時間や場所を選べる、いろいろな働き方が求められます。くわしくは11ページで学びます。

注意 × 労働基準法は、労働組合をつくる権利を保障する法律 ○ それは労働組合法

合言葉 「基準・組合・調整（労働三法）」

→ まとめ：労働基準法が最低の基準を決め、多様な働き方が求められている

1 全体像	2・3 生産	4・5 企業	6・7 株式会社	8・9 働く人	10・11 働き方	12・13 価格	14・15 価格の働き	16 まとめ
-------	--------	--------	----------	---------	-----------	----------	-------------	--------

10 働き方は、どう変わってきた？

このページのゴール 終身雇用・年功序列賃金から成果主義・転職へ、正規労働者と非正規労働者のちがいを言える

① 雇い方と賃金の決め方

	前	近年
雇い方	<u>終身雇用</u> （1つの会社で定年まで働く）	転職する人が増えた
賃金の決め方	<u>年功序列賃金</u> （年齢や勤めた年数で賃金上がる）	<u>成果主義</u> （仕事の成果や能力で賃金を決める）を取り入れる会社が増えた

例：入社20年のEさんと入社3年のFさん。年功序列賃金なら、Eさんの賃金が高くなります。成果主義なら、仕事の成果によって、Fさんのほうが高くなることもあります。

② 正規労働者と非正規労働者

正規労働者（正社員）：期間の定めなく、フルタイムで働く労働者。
非正規労働者：パート・アルバイト・派遣労働者・契約労働者（契約社員）など。

	正規	非正規
働く期間	決まっていない	決まっていることが多い
賃金	年齢とともに上がりやすい	上がりにくく、差が大きい
仕事が無くなる心配	小さい	仕事が減ると、契約を打ち切れやすい

非正規労働者は、雇われて働く人の約37%（4割近く。総務省の調べ）をしめます。非正規には、自分の都合に合わせて働ける良さもあります。

同一労働同一賃金：同じ会社で同じ仕事をする正規と非正規の間で、不合理な待遇の差をつけることを禁止する考え方（2020年から。中小企業は2021年から）。

注意 × 非正規労働者は、アルバイトだけのこと ○ パート・派遣・契約も非正規労働者

合言葉 「正規は期間の定めなし、非正規は期間が決まっていることが多い」

→ まとめ：終身雇用や年功序列賃金から変わり、非正規労働者も増えた

11 いきいきと働ける社会にするには？

このページのゴール 長時間労働と過労死、ワーク・ライフ・バランス、働き方改革、多様な人が働きやすい職場を言える

① 長時間労働から、ワーク・ライフ・バランスへ

- ① 長時間労働が続く
- ② 心や体の病気になったり、**過労死**（かろうし。働きすぎによる病気や死）につながったりする
- ③ 仕事と生活の調和が大切だと考えられるようになる
- ④ **働き方改革**が進む（2019年から、残業時間に上限が設けられた）

ワーク・ライフ・バランス：仕事と、家庭・地域・趣味などの生活との調和。

② 働きやすい職場の取り組み

分野	取り組みの例
時間	働く時間を自分で決められる制度（フレックスタイム制）。残業を減らす
場所	テレワーク （インターネットなどの情報通信技術を使い、自宅などで働く）
子育てと介護	育児休業を男性も取る。保育所を整える
いろいろな人	女性・高齢者（定年の延長）・障がいのある人・ 外国人労働者 が働きやすい職場

9ページで学んだ「多様な働き方が求められるわけ」は、このような取り組みで形になります。取り組みは、その人の事情に合わせて選びます。

場面	あてはまる取り組みの例
小さな子を育てながら働くAさん	保育所を整える。働く時間を自分で決められる制度
家族の介護をしながら働くBさん	テレワークで、自宅で働く。残業を減らす
子どもが生まれた男性のCさん	育児休業を、男性も取る
定年のあと働きたいDさん	定年の延長など、高齢者が働きやすい職場

グラフの読み方：2つのグラフから特徴を読むときは、1つずつ読みます。年ごとに変わるグラフは「増えているか、減っているか」、グループをくらべるグラフは「どのグループが高いか」を見ます。

注意 ×ワーク・ライフ・バランスとは、仕事をせずに生活を楽しむこと ○仕事と生活の**調和**

合言葉 「仕事と生活のバランス」

→ まとめ：ワーク・ライフ・バランスをめざして、働き方改革や多様な働き方が進んでいる

12 ものの値段は、どうやって決まる？

このページのゴール 市場経済、需要量と供給量、需要曲線と供給曲線、均衡価格を、グラフで読める

あなたがかき氷屋さんだったら、1杯500円で売りますか、100円で売りますか。500円では買う人が少なく、売れ残ります。100円ではすぐに売り切れて、つくるほど損かもしれません。値段は、買う人と売る人の両方から考えて決まります。

市場（しじょう）：商品が売り買いされる場（インターネットでの売り買いなども含む）。市場を通じて、商品が自由に売り買いされる経済を**市場経済**という。

買い手が買おうとする量を**需要量**（じゅようりょう）、売り手が売ろうとする量を**供給量**（きょうきゅうりょう）という。

価格（円）	100	200	300	400	500
需要量（杯）	100	80	60	40	20
供給量（杯）	20	40	60	80	100

500円：需要量20<供給量100 → 売れ残り → 下がる。

100円：需要量100>供給量20 → 品不足 → 上がる。

需要曲線は右下がり（価格が高いと買う量が減る）、**供給曲線は右上がり**（価格が高いと売りたい量が増える）です。

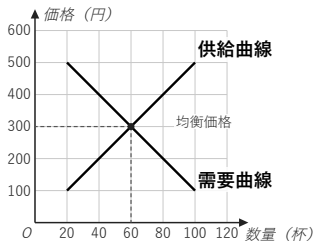


図 かき氷屋の需要曲線と供給曲線

① グラフの読み方 — 価格（縦の軸）から見る

- ① 縦の軸（価格）で、調べたい価格を決める
- ② そこから横に線を引く
- ③ 需要曲線にぶつかる所の数量 = 買いたい量、供給曲線にぶつかる所の数量 = 売りたい量を読む
- ④ 2つの数量をくらべる

価格	需要	供給	結果
400円	40杯	80杯	売れ残り → 下がる
200円	80杯	40杯	品不足 → 上がる

均衡価格（きんこうかかく）：需要量と供給量が一致する価格（グラフの交わる点。300円・60杯）。**市場価格**：市場で実際に売り買いされる価格。上がり下がりをしながら、均衡価格に近づく。

注意 × 右上がりの線が需要曲線 ○ 右上がりには供給、右下がりには需要。売れ残りで価格は下がる

合言葉 「需要は買う人、供給は売る人」

→ まとめ：価格は、需要量と供給量のバランスで決まり、均衡価格に近づく

13 価格は、どんなときに変わる？

このページのゴール 需要量や供給量が変わると曲線が動いて価格が変わること、希少性と価格の関係を言える

⑨前半で学んだ希少性（欲しい量に対して、物の量が限られていること）は、価格とも関係があります。欲しい人が多いのに量が少ない物は、**価格が高くなりやすい**です。

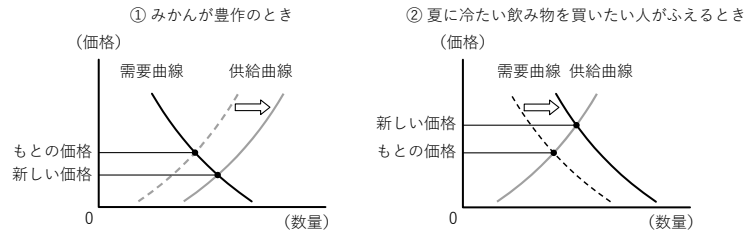
① 曲線が動くとき

どの価格でも買いたい量（需要量）が変わると、需要曲線が動く。どの価格でも売りたい量（供給量）が変わると、供給曲線が動く。

どんなとき	動く曲線	向き	価格	例
どの価格でも需要量が増える	需要曲線	右へ	上がる	夏に冷たい飲み物
どの価格でも需要量が減る	需要曲線	左へ	下がる	流行が終わる
どの価格でも供給量が増える	供給曲線	右へ	下がる	みかんが豊作
どの価格でも供給量が減る	供給曲線	左へ	上がる	工場の事故で部品がつかれない

② グラフで確かめる

グラフの線は、**需要曲線は黒、供給曲線は灰色**です。もとの曲線は破線、動いた後の曲線は実線で、白ぬきの矢印が動く向きを表します。縦の軸（価格）で、もとの価格と新しい価格をくらべましょう。



株価も同じしくみです。株を買いたい量が売りたい量より多いと、株価は上がります（7ページ）。

注意 × 供給曲線が右へ動くと、価格は上がる ○ 同じ価格で売りたい量が増え、交わる点が下がるので、価格は**下がる**

合言葉 「需要が増えれば値上がり、供給が増えれば値下がり」

→ まとめ：需要や供給が変わると曲線が動き、価格が変わる

14 価格には、どんな働きがある？ 競争が無くなると、どうなる？

このページのゴール 価格の働き（資源をむだなく使う＝効率）、独占と寡占、独占価格を言える

① 価格の働き

価格の働き：価格は、何を・どれだけつくり、どれだけ買うかの目安（信号）になる。

	生産者は	消費者は
価格が上がる	もっとつくる	買う量を減らす
価格が下がる	つくる量を減らす	買う量を増やす

この働きによって、限られた資源（原材料・労働力など）が、多くの人が必要とする物の生産に、むだなく使われます（効率がよい）。

たとえば、かぜがはやって、マスクを欲しい人が急に増えたときは、次のように進みます。

- ① マスクを買いたい量が急に増えて品不足になり、価格が上がる（12ページ）
- ② 価格が上がったのを見て、多くの企業がマスクをもっとつくる（原材料や労働力が、マスクの生産に回る）
- ③ マスクが多くの人に行きわたり、品不足がなくなると、価格も下がっていく

② 独占と寡占

独占：1社だけが商品を供給している状態。
寡占（かせん）：少数（数社）の企業が商品の大部分を供給している状態。

	多くの企業が売る	寡占	独占
売る企業の数	多くの企業	少数（数社）	1社
競争	ある	弱い	ほとんどない
価格	競争で下がりやすい	高いままになりやすい	企業が一方的に決めやすい

競争が弱いと、企業が一方的に決める高い価格（独占価格）になることがあります。消費者は、高い値段で買うしかなくなります。競争相手の企業が減って、売る企業が1社だけになると、その企業が価格を一方的に決めやすくなります。寡占になりやすい物の例：自動車・ビール・携帯電話の通信です。

注意 × 独占は数社、寡占は1社 ○ **逆**。独占は1社、寡占は数社

合言葉 「独占は1社、寡占は数社」

→ まとめ：価格は資源をむだなく使わせる。独占や寡占では、価格が高くなりやすい

15 公正な競争と、私たちの生活を守るしくみは？

このページのゴール カルテル、独占禁止法と公正取引委員会、公共料金とそのわけを言える

① カルテルと独占禁止法

カルテル：企業どうしが前もって話し合っ、価格や生産量を決めること。

ある学校の修学旅行の見積もりで、旅行会社のA社・B社・C社が出す値段を考えてみましょう。

	競争がある時	カルテルの時
3社は	それぞれ安い見積もりを出す	前もって「どこも1人2万円以上」と決める
学校は	いちばん安い会社を選べる	高い値段で申しこむしかない

独占禁止法（どくせんきんしほう。1947年）：企業どうしの公正で自由な競争をうながす法律。カルテルなどを禁止する。
公正取引委員会：この法律が守られているか監視する国の機関。カルテルなどが行われていないかを調べ、行われていればやめるよう命令する。

② 公共料金

公共料金：国民の生活に大きなえいきょうがあるため、国や地方公共団体が決めたり、認めたり（認可）する料金。

決め方	例
国会・政府が決める	社会保険診療報酬・介護報酬
政府が認可する	電気料金・鉄道運賃・都市ガス料金・乗合バス運賃・高速道路の料金
政府に届け出る	郵便料金（手紙・はがき）・固定電話の通話料金
地方公共団体が決める	公営水道料金・公立学校の授業料・公衆浴場の入浴料

電気・水道・鉄道などは、生活に欠かせません。自由に値上げされると困るので、国や地方公共団体が決めたり、認めたりします。

注意 × 公共料金は、需要と供給だけで自由に決まる ○ 国や地方公共団体が決めたり、認めたりする

合言葉 「競争を守る独占禁止法、生活を守る公共料金」

→ まとめ：独占禁止法で公正な競争を守り、生活に欠かせない物は公共料金にしている

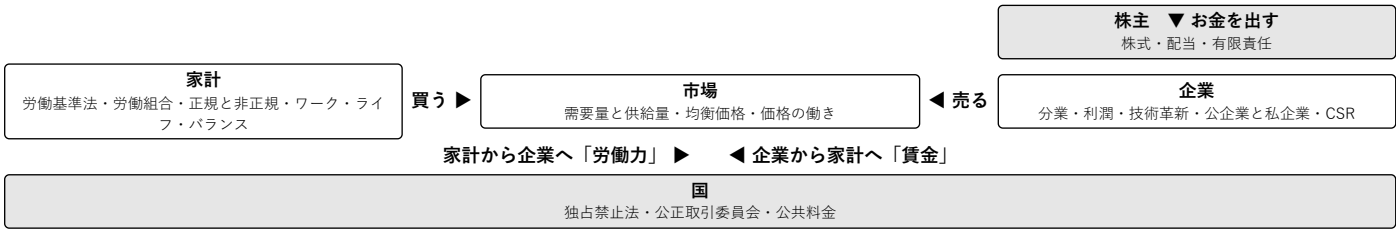
16 企業・働く人・価格は、どうつながって暮らしを支えている？

このページのゴール 2～15ページを、ステップチャートで順につないで、1ページの問いに答えられる

① ステップチャート

① 企業は設備・原材料・労働力・資本で生産し、分業と交換で効率よくつくる	くわしくは2ページ
② 私企業は利潤を目的に競争し、その中で技術革新が生まれる	くわしくは3ページ
③ 企業には公企業と私企業があり、中小企業が多くの人を雇う	くわしくは4ページ
④ 起業し、利潤だけでなく社会的責任も果たす	くわしくは5ページ
⑤ 株式会社は、株式で資本を集め、利潤を配当で返す	くわしくは6ページ
⑥ 株主は有限責任。株価は、買いたい人と売りたい人で動く	くわしくは7ページ
⑦ 働く人は、労働組合と労働三権で守られる	くわしくは8ページ
⑧ 労働基準法が最低の基準。多様な働き方が求められる	くわしくは9ページ
⑨ 終身雇用から成果主義へ。正規と非正規のちがい	くわしくは10ページ
⑩ ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	くわしくは11ページ
⑪ 価格は需要量と供給量で決まり、均衡価格に近づく	くわしくは12ページ
⑫ 需要や供給が変わると曲線が動き、価格が変わる	くわしくは13ページ
⑬ 価格は資源をむだなく使わせる。独占や寡占では価格が高くなりやすい	くわしくは14ページ
⑭ 独占禁止法で公正な競争を守り、公共料金に国などが決める	くわしくは15ページ

② 企業と市場の全体図



③ 問いの答えの例

企業は、分業と交換で効率よく生産し、利潤を目的に競争する中で技術革新を生み、社会的責任も果たします。株式会社は、株式で資本を集めます。働く人は、労働基準法や労働組合で守られ、多様な働き方が求められています。価格は需要と供給で決まり、資源をむだなく使わせませんが、競争が弱まると高くなりやすいので、独占禁止法で公正な競争を守り、生活に欠かせない物は公共料金にしています。

答えと解説は21・22ページ（11枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

ラーメン店で使う次のア～エを、設備・原材料・労働力・資本に分け、記号で答えなさい。 ア 調理をする人 イ 店を開くための元手のお金 ウ ねぎ エ コンロ

- 2 企業の種類と社会的責任について答えなさい。【4・5ページ】

- 3 株式会社について答えなさい。【6・7ページ】

- (1) (ア) 株主が会社にお金を出すこと。 _____
- (2) (イ) 株主が集まり、会社の基本的な方針を決める会議。 _____
- (3) (ウ) (イ) で選ばれ、実際に会社の経営を任される人。 _____
- (4) (エ) 会社のもうけの一部として、株式の数に応じて株主に分けられるもの。 _____



- (5) A社の株式を、Cさんは200株、Dさんは50株持っています。(イ)での議決権は、CさんはDさんの何倍ですか。 _____ 倍
- (6) 株式が売り買いされる場所を何といいますか。 _____
- (7) 株主に有限責任があると、多くの人が株式を買いやすくなるのはなぜですか。20～40字程度で書きなさい。

確認問題 ② 働く人・需要と供給

4 働く人の権利について答えなさい。【8・9ページ】

- (1) 労働者が団結してつくり、使用者と対等に話し合う組織を何といいますか。 _____
- (2) (1)が使用者と交渉する権利を何といいますか。 _____
- (3) ストライキなどを行う権利を何といいますか。 _____
- (4) Bさんが働く会社では、使用者が毎日10時間働かせ、毎週の休みも与えません。労働条件の最低の基準を決めた、使用者が守らなければならない法律は何ですか。 _____
- (5) (4)の法律では、労働時間を1日 _____ 時間、1週 _____ 時間以内と決めています。数を書きなさい。
- (6) 労働者と使用者の争いを、労働委員会が間に入って解決する法律は何ですか。 _____
- (7) 労働者が(1)をつくるのは、なぜですか。20～40字程度で書きなさい。

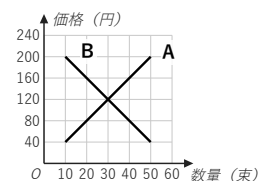
5 働き方の変化について答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 1つの会社で定年まで働く雇い方を何といいますか。 _____
- (2) 仕事の成果や能力で賃金を決める考え方を何といいますか。 _____
- (3) 次のうち、非正規労働者にあたるものを1つ選びなさい。
- ア 期間の定めなく、フルタイムで働く正社員 イ 期間を決めて契約を結んで働く契約社員
- ウ 会社を経営する社長 _____
- (4) 仕事と、家庭・地域・趣味などの生活との調和を何といいますか。 _____
- (5) 次のうち、(4)をめざす取り組みにあたるものを1つ選びなさい。
- ア 残業の時間を増やす イ 長時間労働を続けてもらう
- ウ 子育てをしている人には仕事をさせない エ 残業を減らし、仕事と生活の両立をはかる _____
- (6) 同じ会社で同じ仕事をする正規労働者と非正規労働者の間で、不合理な待遇の差をつけることを禁止する考え方を何といいますか。 _____
- (7) 非正規労働者は、正規労働者とくらべて、どのような問題を抱えやすいですか。賃金と、契約の2つの点から、20～40字程度で書きなさい。

6 需要と供給について答えなさい。【12ページ】

ある野菜1束の価格と、買おうとする量・売ろうとする量の関係を表したグラフです。答えなさい。

- (1) グラフのA・Bのうち、需要曲線はどちらですか。 _____
- (2) グラフのA・Bのうち、供給曲線はどちらですか。 _____
- (3) 価格が160円のととき、買おうとする量と売ろうとする量は、それぞれ何束ですか。 _____
- (4) (3)のととき、売れ残りと品不足のどちらですか。 _____
- (5) (4)のあと、価格はどうなりますか。 _____



- (6) 買おうとする量と売ろうとする量が一致する価格を何といいますか。また、このグラフでは何円で、そのときの数量は何束ですか。
- (7) 売り手が売ろうとする量を何といいますか。

確認問題③ 価格の変化・独占・まとめ

7 価格の変化について答えなさい。【13ページ】

次の場面で、需要曲線と供給曲線のどちらが、右と左のどちらへ動くかと、価格の変化を答えなさい。()に入る語を書きなさい。

- (1) テレビで紹介されて、ある果物の人気が出た。() 曲線が () へ動き、価格は ()。
- (2) 新しい工場ができて、ある部品の生産が増えた。() 曲線が () へ動き、価格は ()。
- (3) あたたかい冬で、冬物のコートが売れない。() 曲線が () へ動き、価格は ()。
- (4) 欲しい人が多いのに量が少ない物の価格は、どうなりやすいですか。_____
- (5) どの価格でも売りたい量が減ったとき、動く曲線とその向き、価格の変化を書きなさい。_____
- (6) 需要曲線が左へ動いたとき、どの価格でも、買いたい量はどうなっていますか。_____
- (7) 供給曲線が右へ動いたとき、どの価格でも、売りたい量はどうなっていますか。_____

8 価格の働きと独占・公共料金について答えなさい。【14・15ページ】

- (1) 価格が上がると、生産者と消費者は、それぞれどうしますか。_____
- (2) 価格の働きによって、限られた資源がむだなく使われることを、何といいますか。_____
- (3) 少数(数社)の企業が、商品の大部分を供給している状態を何といいますか。_____
- (4) 企業どうしが前もって話し合って、価格や生産量を定めることを何といいますか。_____
- (5) (4)などを禁止して、企業どうしの公正で自由な競争をうながす法律は何ですか。_____
- (6) (5)が守られているかを監視する国の機関は何ですか。_____
- (7) 次のうち、公共料金にあたるものを1つ選びなさい。 ア 洋服の値段 イ 文房具の値段 ウ 電気料金 エ 飲食店の料理の値段 _____
- (8) 公共料金を、国や地方公共団体が決めたり、認めたりするのはなぜですか。20～40字程度で書きなさい。

9 まとめ 【2～16ページ】

次は、16ページのステップチャートの一部です。(ア)(イ)にあてはまる語を書きなさい。

株式会社は、株式で多くの人から(ア)を集め、利潤を配当で返す

↓

株主は(イ)責任。株価は、買いたい人と売りたい人で動く

- (1) (ア) _____
- (2) (イ) _____
- (3) 企業どうしが競争すると、消費者にとって、どのような良い点がありますか。20～40字程度で書きなさい。

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

生産と企業（2～5ページ）	
生産・必要なもの	生産＝財やサービスをつくり出すこと。設備・原材料・労働力・資本（元手のお金）
分業・交換・効率	分業＝仕事を分けて受け持つ。交換＝お金を仲立ちに取りかえる。分業でたくさん・早く・安くつくれる
利潤・資本主義経済	利潤＝売り上げ－費用。資本主義経済＝企業が利潤を目的に自由に生産する。競争から技術革新（イノベーション）
企業の種類	公企業＝国・地方公共団体が経営、公共のため。私企業＝民間が経営、利潤目的（個人企業・法人企業）
中小企業・起業・CSR	中小企業＝企業の数の99%以上、働く人の約7割。起業・ベンチャー企業。企業の社会的責任（CSR）

株式会社（6・7ページ）	
株式会社・株主	株式を発行して資本を集める会社。株主＝株式を買って出資した人
株主総会・取締役・配当	株主総会＝基本方針を決め取締役を選ぶ（株式の数に応じた議決権）。取締役＝経営を任される人。配当＝利潤の一部を株主に分ける
有限責任・株価・投資	有限責任＝出したお金を失うだけ。証券取引所で売買。買いたい人が多いと株価は上がり、売りたい人が多いと下がる。投資＝株式を買ってお金を出す

働く人の権利と働き方（8～11ページ）	
労働組合・労働三権	労働者が団結してつくる。団結権・団体交渉権・団体行動権（ストライキなど）
労働三法	労働基準法（最低の基準。1日8時間・1週40時間・毎週1日の休日）・労働組合法・労働関係調整法。男女雇用機会均等法・育児・介護休業法
雇用の変化	終身雇用・年功序列賃金 → 転職・成果主義。正規労働者（期間の定めなし）と非正規労働者（約37%）。同一労働同一賃金
働き方改革など	過労死・ワーク・ライフ・バランス・働き方改革（残業時間の上限）・テレワーク・外国人労働者

価格の決まり方と働き（12～15ページ）	
市場経済・需要量と供給量	市場経済＝市場を通じて自由に売り買いされる経済。需要量＝買い手が買おうとする量。供給量＝売り手が売ろうとする量
曲線・均衡価格	需要曲線＝右下がり。供給曲線＝右上がり。均衡価格＝需要量と供給量が一致する価格。売れ残り → 下がる、品不足 → 上がる
曲線が動くとき	需要が増える → 右へ・値上がり。供給が増える → 右へ・値下がり。希少性が高い（欲しい人が多く量が少ない）と高くなる
価格の働き・独占と寡占	価格は生産・消費の目安 → 資源をむだなく使う（効率）。独占＝1社。寡占＝数社。独占価格
カルテル・独占禁止法・公共料金	カルテル＝話し合って価格を決める。独占禁止法（1947年）。公正取引委員会。公共料金＝国や地方公共団体が決める・認める

合言葉
「分けてつくって、お金で交換」／「利潤＝売り上げ－費用」／「私企業は利潤、公企業は公共のため」／「利潤も、社会への責任も」／「株式でお金を集め、利潤を配当で返す」／「買いたい人が多いと上がり、売りたい人が多いと下がる」／「1人では弱い、団結して対等に」／「基準・組合・調整（労働三法）」／「正規は期間の定めなし、非正規は期間が決まっていることが多い」／「仕事と生活のバランス」／「需要は買う人、供給は売る人」／「需要が増えれば値上がり、供給が増えれば値下がり」／「独占は1社、寡占は数社」／「競争を守る独占禁止法、生活を守る公共料金」

確認問題の答えと解説

1【2・3ページ】

- (1) エ (2) ウ (3) ア (4) イ
 - (5) ウ
 - (6) 利潤
 - (7) 資本主義経済
 - (8) 技術革新（イノベーション）
- (1)～(4) コンロは生産に使う設備、ねぎはつくる物の材料なので原材料、調理をする人は労働力、店を開く元手のお金は資本。(5) 仕事を分けると、得意な仕事に集中でき、なれて早くなるので、たくさん・早く・安くつくれる。アは1人で全部するのは分業ではない、イは自分のつくらない物はお金で手に入れる（交換）、エは分業するとつくれる量は多くなる、がちがう。(6) 売り上げ－費用が利潤。(7) 資本を元手に、利潤を目的に自由に生産するしくみ。(8) 競争がきっかけで新しい技術や方法が生まれる。【2・3】

2【4・5ページ】

- (1) エ
 - (2) 法人企業
 - (3) ア
 - (4) ベンチャー企業
 - (5) イ→ア→ウ
 - (6) 企業の社会的責任（CSR）
 - (7) イ
- (1) 市が営む地下鉄は、地方公共団体が経営し、公共のために仕事をする公企業。株式会社の工場・花屋・八百屋は、民間が利潤を目的に営む私企業。(2) 会社の形をとる私企業は法人企業。(3) 中小企業は企業の数の99%以上、働く人の約7割。(5) 起業は、困りごと→売り上げと利潤→社会への責任の順に考える。(7) ごみを減らす取り組みは社会的責任。川に流す・うその表示・休みを少なくするのは責任に反する。【4・5】

3【6・7ページ】

- (1) 出資（投資も可） (2) 株主総会 (3) 取締役 (4) 配当
 - (5) 4倍
 - (6) 証券取引所
 - (7) （例）出したお金を失うだけで、それ以上の責任は負わないので、安心して株式を買い戻すから。
- (1) 6ページの図の語は出資。株式を買って会社にお金を出すので、7ページの投資でもよい。株主が出資し、株主総会が取締役を選び、取締役が会社を経営する。会社の利潤の一部は配当として株主に分けられる。(5) 議決権は持っている株式の数に応じるので、 $200 \div 50 = 4$ 倍。(7) 採点のめやす：「出したお金」と「それ以上の責任は負わない（会社の借金を返さなくてよい）」の語が入っていれば正解。【6・7】

4【8・9ページ】

- (1) 労働組合
 - (2) 団体交渉権
 - (3) 団体行動権
 - (4) 労働基準法
 - (5) 1日 8時間・1週 40時間
 - (6) 労働関係調整法
 - (7) （例）労働者は1人では弱い立場なので、団結して使用者と対等に話し合うため。
- (2)(3) 交渉する権利は団体交渉権、ストライキなどは団体行動権（団結権は労働組合をつくる権利）。(4) 労働時間や休日の最低の基準を決めるのは労働基準法。10時間労働・休みなしは基準に合わない。(5) 1日8時間・1週40時間以内、休日は少なくとも毎週1日。(6) 争いを解決するのは労働関係調整法。(7) 採点のめやす：「1人では弱い立場」「対等」の語が入っていれば正解。【8・9】

5【10・11ページ】

- (1) 終身雇用
 - (2) 成果主義
 - (3) イ
 - (4) ワーク・ライフ・バランス
 - (5) エ
 - (6) 同一労働同一賃金
 - (7) （例）賃金が上がりにくく、仕事が減ると契約を打ち切られやすいという問題。
- (3) 期間を決めて契約する契約社員は非正規労働者。正社員は正規、社長は雇う側。(5) 残業を減らして仕事と生活の両立をはかるのが取り組み。残業を増やす・長時間労働・子育て中の人を働かせないのは調和に反する。(7) 採点のめやす：「賃金」と「契約を打ち切られ」の語が入っていれば正解。【10・11】

6【12ページ】

- (1) B (2) A
 - (3) 買おうとする量20束・売ろうとする量40束
 - (4) 売れ残り (5) 下がる
 - (6) 均衡価格・120円・30束
 - (7) 供給量
- 価格が高いと買う量が減るBが需要曲線（右下がり）、価格が高いと売りたい量が増えるAが供給曲線（右上がり）。(3) 縦の軸の160円から横に線を引き、Bにぶつかる所が20束、Aにぶつかる所が40束。(4)(5) $20 \text{束} < 40 \text{束}$ なので売れ残りで、価格は下がる。(6) 2つの線が交わる点が均衡価格で、120円・30束。【12】

7 【13ページ】

- (1) (需要) 曲線が(右)へ動き、価格は(上がる)
- (2) (供給) 曲線が(右)へ動き、価格は(下がる)
- (3) (需要) 曲線が(左)へ動き、価格は(下がる)
- (4) 高くなりやすい
- (5) 供給曲線が左へ動き、価格は上がる
- (6) 減っている (7) 増えている

(1) 人気が出ると、どの価格でも買いたい量が増えるので、需要曲線が右へ動き、交わる点上がる。(2) 生産が増えると、どの価格でも売りたい量が増えるので、供給曲線が右へ動き、価格は下がる。(3) 売れないのは買いたい量が減ったので、需要曲線が左へ動き、価格は下がる。(4) 欲しい人が多く量が少ないと高い。(5) 売りたい量が減ると供給曲線が左へ動き、価格は上がる。(6)(7) 曲線が左へ動くのは量が減るとき、右へ動くのは増えるとき。【13】

8 【14・15ページ】

- (1) 生産者をもっとつくり、消費者は買う量を減らす
- (2) 効率
- (3) 寡占
- (4) カルテル
- (5) 独占禁止法
- (6) 公正取引委員会
- (7) ウ
- (8) (例) 国民の生活に大きなえいきょうがあり、自由に値上げされると生活に困るから。
- (1) 価格が上がると生産者は生産を増やし、消費者は買う量を減らす。(3) 1社が独占、数社が寡占。(4) 前もって話し合うのがカルテル。(5)(6) 独占禁止法が公正な競争をうながし、公正取引委員会が監視する。(7) 電気料金は国が認可する公共料金。洋服・文房具・料理の値段は自由に決まる。(8) 採点のめやす：「生活」「えいきょうが大きい」の語が入っていれば正解（「値上げされると困る」も可）。【14・15】

9 【2～16ページ】

- (1) 資本 (2) 有限
- (3) (例) 技術革新が生まれ、より良い物をより安く手に入れられる。
- (1)(2) 16ページのステップチャートの⑤と⑥（(1)は「お金」でも意味は合うが、ことばで答えるなら資本）。(3) 競争があると、新しい技術や製品が生まれ（技術革新）、価格が下がりやすい。採点のめやす：「技術革新」または「価格が下がる（安く）」が入っていれば正解。【3・14・16】